

2020年10月23日(金)、24日(土)の2日間

クリエイティブで切り拓く未来について議論を展開

「DESIGNART TOKYO 2020」 オープニングセッション開催！

宮本亜門、落合陽一、ロナン・ブルレック他、世界で活躍するクリエイターが集結

森ビル株式会社が運営する「アカデミーヒルズ」と、DESIGNART TOKYO実行委員会は、在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本の助成のもと、「DESIGNART TOKYO 2020」のオープニングセッションを、10月23日(金)、24日(土)に開催いたします。

「DESIGNART」は、さまざまなジャンルの垣根を超えて、デザインとアートを横断するモノやコトの素晴らしさを発信、共有する活動です。その活動の発表の場として2017年に始まった「DESIGNART TOKYO」は、世界屈指のミックスカルチャー都市である東京を舞台に、世界中からインテリア、アート、ファッション、フードなどさまざまなジャンルのモノやコトが集結し、各展示を回遊して街歩きを楽しめる、まさに東京の街全体がデザイン&アートミュージアムになるイベントです。2019年は約22万人が来場しました。

本年の当イベント開幕を飾るオープニングセッションは「Creative for the future ～クリエイティブで切り拓く未来への架け橋」をテーマに、芸術、デザイン、建築、テクノロジーといった様々なジャンルの第一線で、国内外問わず活躍するクリエイターやアーティストが日本・フランスから集結し、クリエイティブで切り拓く未来について、今話すべき4つのテーマで議論を展開します。4つのセッションは、日仏両国でオンライン配信され、これからの未来に対して、本当に大切なものは何なのか、考えるきっかけを提供します。



DESIGNART TOKYO × アカデミーヒルズ CONFERENCE BRIDGE 2020

「Creative for the future ～クリエイティブで切り拓く未来への架け橋」開催概要

日時 10月23日(金) 17:00～18:30 SESSION 1 「Art and Performance」
19:30～21:00 SESSION 2 「Beyond Design」
10月24日(土) 13:00～14:30 SESSION 3 「Sustainability」
15:30～17:00 SESSION 4 「The Future of Work」

PANELIST 宮本亜門(演出家)、片岡真実(森美術館 館長)、ロナン・ブルレック(デザイナー)
コンスタンス・ルビーニ(ポルドー装飾芸術とデザイン美術館 館長)、藤本壮介(建築家)、妹島和世(建築家)、
皆川明(デザイナー)、落合陽一(メディアアーティスト)、遠山正道(株式会社スマイルズ 代表取締役社長)

形式 オンライン配信

料金 1 DAY 2,000円 / 2DAYS 3,500円(税込)

公式WEB <http://designart.jp/conference2020/>

参加申込 <https://eventregist.com/e/designart2020> (申込締切: 10/20(火)18時)

主催 DESIGNART TOKYO 実行委員会、アカデミーヒルズ

助成 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本

CONFERENCE BRIDGE 2020 PROGRAM

10.23 (金)

17:00 ~ 18:30 | SESSION1 | 「Art and Performance / アート & パフォーマンス」

観る概念が変容するこれからの芸術

フィジカルに感じる事が前提として表現されてきた芸術の世界。これからの芸術の向かう先はどうか、ミュージカルから歌舞伎まで、ジャンルを越えた演出を手がける宮本亞門と世界のアートシーンを見続けてきた森美術館館長の片岡真実が語ります。

PANELIST

宮本亞門 | 演出家

2004年、東洋人初の演出家としてニューヨークのオンブロードウェイにて『太平洋序曲』を手がけ、同作はトニー賞の4部門でノミネートされる。ミュージカルのみならず、オペラ、歌舞伎等、ジャンルを越える演出家として、活動の場を国内外へ広げている。

13年、オーストリア・リンツ州立歌劇場でモーツァルト『魔笛』を演出。18年フランス国立ラン歌劇場において黛敏郎作曲オペラ『金閣寺』、20年ワーグナー『パルジファル』を新演出。18年には、ベルサイユ宮殿オペラハウスにて、能×3D映像『幽玄』を上演した。



片岡真実 | 森美術館 館長

ニッセイ基礎研究所都市開発部研究員、東京オペラシティアートギャラリー・チーフキュレーターを経て、2003年より森美術館。2020年より現職。2007～2009年はハイワード・ギャラリー（ロンドン）にて、インターナショナル・キュレーターを兼務。第9回光州ビエンナーレ（2012年）共同芸術監督。第21回シドニー・ビエンナーレ芸術監督（2018年）。CIMAM（国際美術館会議）会長（2020-2022年）、京都芸術大学大学院客員教授、東京芸術大学客員教授。文化庁アートプラットフォーム事業・日本現代アート委員会座長。AICA（美術評論家連盟）会員。その他、日本およびアジアの現代アートを中心に執筆・講演・審査等多数。



写真：伊藤彰紀 / Ito Akinori

10.23 (金)

19:30 ~ 21:00 | SESSION 2 | 「Beyond Design / ビヨンド・デザイン」

今求められる物質的価値を超えたデザインとは

パリを拠点とし、ヴィトラやカッペリーニなどの家具デザインや、マイアミデザインディストリクトのパブリックアートなども手がける、世界的なデザインユニット、ロナン& エルワン・ブルレック兄弟の兄ロナン・ブルレックとボルドー市立装飾とデザイン美術館の館長でデザインの専門家としても知られるコンスタンス・ルビーニとフランス・モンペリエに建てられた集合住宅“白い木”を手がける建築家の藤本壮介が、フランスと日本の両国の視点から、デザインが抱える課題を読み解きます。こちらは、フランスと日本を繋ぎライブ配信いたします。

※本イベントは、アンスティチュ・フランセ日本主催の「日仏デザイントークシリーズ」の一環です。

<https://www.institutfrancais.jp/tokyo/agenda/rencontres-design-2020/>

PANELIST

ロナン・ブルレック | デザイナー

ロナン・ブルレック（1971年生まれ）は、フランス・カンペール出身のクリエイター。1999年より、弟エルワンと共同でデザイン活動を開始。ジュエリーのような小物から公共空間デザイン、建築、工芸品から工業製品、デッサンからビデオ、写真に至るまで幅広い分野のデザインを手がけ、ブルレック兄弟のデザインは私たちの日常に浸透しつつある。

国際的な大手企業とのコラボレーションから、ヨーロッパや日本の伝統工芸職人とのコラボレーションまで、彼らの活動は多岐にわたる。世界の有名な美術館との様々な共同リサーチプロジェクトや、パリのシャンゼリゼ通りのフォンテーヌをはじめとする都市デザインプロジェクトも、世界各国で行っている。



©Alexandre Tabaste

コンスタンス・ルビーニ | ボルドー装飾芸術とデザイン美術館 館長

ボルドー装飾芸術とデザイン美術館館長。フランスとイギリスのアートマーケットでのキャリアを経て、1999年パリ装飾美術館に入職。2005年から2010年にはデザイン都市サン・ティエンヌの文化施設「シテ・デュ・デザイン」が発行する「Azimuts」誌の編集長を務めた。2013年より現職。キュレーションを担当した展覧会に『Oh couleurs ! Le design au prisme de la couleur』（2017年）、『Construction - Martin Szekely』（2018年）、『Memphis - Plastic Field』（2019年）がある。若手デザイナーを紹介した展覧会も多い。ローザンヌ州立美術学校、パリ装飾芸術学校にて教鞭をとる。パリ政治学院のブルーノ・ラトゥール主宰「カルトグラフィー・プログラム」にて講師を務める。



藤本 壮介 | 建築家

1971年北海道生まれ。

東京大学工学部建築学科卒業後、2000年藤本壮介建築設計事務所を設立。2014年フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞（ラルブル・プラン）に続き、2015、2017、2018年にもヨーロッパ各国の国際設計競技にて最優秀賞を受賞。2019年には津田塾大学小平キャンパスマスタープラン策定業務のマスターアーキテクトに選定される。2020年、2025日本国際博覧会の協会事務局会場デザインプロデューサーに就任。

主な作品に、ロンドンのサーペンタイン・ギャラリー・パビリオン 2013（2013年）、House NA（2011年）、武蔵野美術大学 美術館・図書館（2010年）、House N（2008年）等がある。



©David Vintiner

10.24 (土)

13:00 ~ 14:30 | SESSION 3 | 「Sustainability/サステナビリティ」

私が考えるサステナビリティ

サステナビリティや教育の面でテクノロジーを駆使し設計された、イタリア・ミラノにあるボッコニー大学を手がけるなど、日本を代表する世界的建築家の妹島和世と、社会への考察や自然への詩情から図案を描くことで知られるファッションブランド「ミナ ペルホネン」を手がける皆川明が、今、人類が抱える共通課題である環境問題に触れながら、建築とファッションの世界で、今後、取り組むべき行動を議論します。

PANELIST

妹島和世 | 建築家

1956年茨城県生まれ。1987年妹島和世建築設計事務所設立。1995年西沢立衛とともにSANAAを設立。2010年第12回ベネチアビエンナーレ国際建築展の総合ディレクターを務める。主な受賞として日本建築学会賞*、ベネチアビエンナーレ国際建築展金獅子賞*（イタリア）、プリツカー賞*（アメリカ）。主な建築作品として、金沢21世紀美術館*（金沢市）、犬島「家プロジェクト」（岡山市）、ルーヴル＝ランス*（ランス・フランス）など。（*はSANAAとして）



写真：伊藤彰紀 / Ito Akinori

皆川明 | デザイナー

1995年に設立した自身のブランドminä perhonen（2003年まではminä）では、手作業で描かれた図案から作るオリジナルファブリックによるファッション、インテリア等で注目を集める。ストーリー性のあるデザインと、産地ごとの作り手の個性を活かした、長く愛用されるものづくりを目指す姿勢はブランド設立時から一貫している。

個人の活動として、国内外の様々なブランドとデザインを通じての協業を精力的に続ける他、新聞や書籍への挿画、宿のディレクションなど活動は多岐にわたる。



写真：大沼ジョージ

10.24 (土)

15:30 ~ 17:00 | SESSION 4 | 「The Future of Work / フューチャー・オブ・ワーク」

働き方のポストニューノーマル

メディアアーティスト以外に加え研究者や実業家など、様々な肩書きを持ち脚光を浴びる落合陽一とスーパーストックトーキョーやアーティスト支援プラットフォームArtStickerなど、世の中が求める一步先のビジネスを生み出し続ける実業家の遠山正道が、ニューノーマルな世界で求められる「人間がやるべき仕事とは何か」について、AI・ロボット、さらにはテクノロジーの進化によって変わらざるをえない私たちの仕事を踏まえ「これからの世界」を作っていくための考え方を提示します。

PANELIST

落合陽一 | メディアアーティスト

1987年生まれ。東京大学大学院学際情報学府博士課程修了。

筑波大学デジタルネイチャー開発研究センター センター長、准教授

2015年World Technology Award、2016年PrixArs Electronica、EUよりSTARTS Prizeを受賞。

Laval Virtual Award を2017年まで4年連続5回受賞、2019年SXSW Creative Experience ARROW Awards など多数受賞。



写真：蛸川実花 / Mika Ninagawa

遠山正道 | 株式会社スマイルズ 代表取締役社長

1962年東京都生まれ。慶應義塾大学商学部卒業後、85年三菱商事株式会社入社。2000年株式会社スマイルズを設立、代表取締役社長に就任。現在、「Soup Stock Tokyo」のほか、ネクタイ専門店「giraffe」、セレクトリサイクルショップ「PASS THE BATON」、ファミリーレストラン「100本のスプーン」、コンテンポラリーフード&リカー「PAVILION」、海苔弁専門店「刷毛じょうゆ 海苔弁山登り」を展開。

「生活価値の拡充」を企業理念に掲げ、既成概念や業界の枠にとらわれず、現代の新しい生活の在り方を提案している。近著に『成功することを決めた』（新潮文庫）、『やりたいことをやるというビジネスモデル-PASS THE BATONの軌跡』（弘文堂）がある。最近では、もっともシンプルな結婚の在り方「iwaigami」、小さくてユニークなミュージアム「The Chain Museum」、アーティストを支援できるプラットフォーム「Art Sticker」などをスタート。



モデレーター：永田宙郷

CREATIVE FOR THE FUTURE

CREATIVE CONFERENCE BRIDGE BY DESIGNART TOKYO

DESIGNART FESTIVAL 2020

10.23 fri

10.24 sat

ONLINE TALKS

DESIGNART TOKYO

academyhills

INSTITUT FRANÇAIS

DESIGNART TOKYO

DESIGNART TOKYOは、2017年に始まった毎年秋に開催するデザイン&アートフェスティバル。世界屈指のミックスカルチャー都市である東京を舞台に、世界中からアート、デザイン、インテリア、ファッション、フードなどさまざまなジャンルのモノやコトが集結し、都内各所で多彩な展示を行います。各展示を回遊して街歩きが楽しめるのも、このイベントの魅力のひとつ。東京の街全体がデザイン&アートミュージアムになるフェスティバルです。

▼DESIGNART TOKYO 2019 ダイジェスト映像

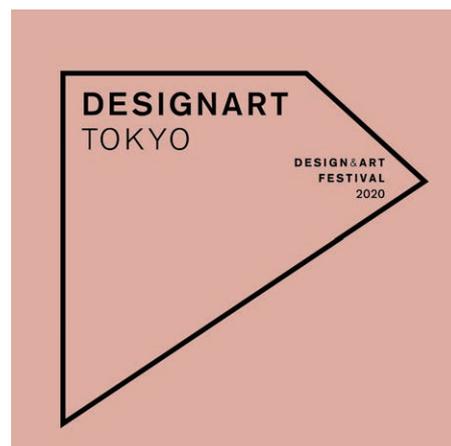
https://www.youtube.com/watch?v=tFWH2Ht-Cbg&feature=emb_logo

▼DESIGNART TOKYO 2019 レポート:

<http://designart.jp/designarttokyo2019/report/>

【昨年実績】

来場者数:約22万人(延べ) / 会場数・出展者数:104 会場・147 / 参加クリエイター&ブランド数:390 / マッチング数: 39



在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本

2012年9月にフランス大使館文化部和東京日仏学院、横浜日仏学院、関西日仏学館、九州日仏学館が統合し、「アンスティチュ・フランセ日本」が誕生。東京、横浜、関西(京都/大阪)、九州(福岡)、そして2019年からは沖縄(那覇)の5支部(6都市)を拠点にフランス政府公式機関としてフランス語講座を開講し、フランス発の文化、思想、学問を発信しています。

<https://www.institutfrancais.jp/>



アカデミーヒルズ

森ビルは、「都市を創り、都市を育む」をテーマに、ハードとソフトの両面から都市づくりに取り組んでいます。「都市を育む」取り組みの一つとして、森ビルが運営するアカデミーヒルズは“自律的に自立する個人の支援”をミッションに、社会人に向けた「セミナー事業」、会員制図書館を運営する「ライブラリー事業」、貸しホール・貸会議室を運営する「フォーラム事業」の3つの機能を軸に、都市生活者に対して「知的活動の場」と「知的情報交流の機会」を提供しています。

<http://www.academyhills.com>

